蔵書構築のための選書リスト「学習指定図書」

押 田 い く 子*

東邦大学医学部図書館

Oshida I.(Toho University School of Medicine, Library. 5-21-16 Omori-nishi, Ota-ku, Tokyo 143, Japan) : Selected and Assigned Booklists for Collection Development : A Case Report on the Distribution of "Gakushu Shitei Toshō" to Students, Residents, and Teaching Faculty. *Igaku Toshokan* 1995 ; 42(1) : 62-68 .

Collection development in medical libraries from the viewpoint of the acquisition librarian has two sides. One is the planned and constant purchase of new resources for the ever expanding fields of medical science for the sake of researchers and advanced users of the library. The other is "Gakushu Shitei Toshō" or a selected assigned booklist for medical students and residents. It is not easy to routinize book selection systems, but we succeeded by setting criteria in the form of a list driven by practical necessity, and named it "Gakushu Shitei Toshō." This has been used efficiently for the past fifteen years. The first list was published and distributed to the related, and the latest or 5th ed. was published in 1993. In this report we review how the library selects books with the help of faculty members who are responsible for the selection of books for each subject in the curriculum. In addition, maintenance of the system by library staff is described.

I. はじめに

医学生にとって良い医学書を選ぶことが重要な
のはいうまでもない。修めるべき教科目は増加し、
多忙な生活をおくっている学生にとって、良い参
考書を選ぶことは効果的な学習に不可欠なこと
と思われる。また研究者にとっても、医学研究に
おける専門・細分化や学際領域の拡大などに伴っ
て、権威ある図書を選ぶことは研究を進めるにあ
って重要なことであろうと推察する。

一方、図書館員にとって、図書選定は率直にい
って気の重い仕事である。選書担当者はある程度
の医学知識をもち、医学研究や医療の歴史と現
状を認識し、今後の動向を予測し、出版事情に
も通じ、

利用者の需要を把握するためには学部のカリ
キュラムにまで踏み込まなければならないから
である。

選書はまた、図書館業務の中では標準化の難
しい仕事でもある。しかし、予算、保管スペース、
管理労力などの制約の中で、長い時間をかけて
行われる蔵書構築のためには、館の事情にあっ
た独自の方法をもたねばならない。

当館では、成文化された選書基準をもっている。
本稿の趣旨はこの選書基準ではないが、論をす
める便宜上、表1に「選書・受け入れ基準：図
書AV資料の部」の一部を示す。

表1の「2 資料の主題による基準」の下の方
に*をつけた「学習指定図書」が本稿のテーマ
である。これは当館で15年来行われている学
習指定図書制度の成果で、図書館による学生・
研修医・教員のための指定・推薦図書リス
トであり、図書館員にとっては自館制作の選
書ツールでもある。初版

*Ikuko OSHIDA : 〒143 東京都大田区大森西 5-21-16.

(1994 年 12 月 12 日 受理)

表 1. 選書・受け入れ基準：図書 AV 資料の部

1 選書・受け入れ基準の意義

財政、保管スペース、管理労力などの制約の中で、利用者の需要にあった蔵書構築をおこなうために、選書・受け入れ基準を設ける。

選書の時期と選定者

(1) 教員による選定：年一回

これは各講座・研究室・その他これに準じる部局員による選定である。

選定条件としては 1) 医学部研究費配分額に準じて定めた予算枠を設ける。

2) 専門分野の図書を学生用、研究者用にわけて、いずれにも偏らないように選定依頼する。

(2) 図書館員による選定：月一回

以下に示す「選書・受け入れ基準」により、担当司書（以下、担当者）がおもに新刊書の中から選定する。

(3) その他：利用者からの希望を随時

学生、保健医療関係業務従事者、教職員などの投書の中から担当者が判断する。その基準は同じく「選書・受け入れ基準」による。

— 選書・受け入れ基準 —

以下は上記(2) および(3) のための基準である。

2 資料の主題による基準

網羅的に収集するもの：医学新刊和書。ただしこのうち、医学総記、看護学、薬学に分類されるものは選択的収集（後出）する。

医学辞書辞典、医学二次資料、医学参考図書

* 「学習指定図書」に指定された図書

「定期購入参考図書」に指定された図書

「学習要項」に掲載された図書

医学教育に関する図書

発行は1979年で、その後改訂を重ね、最新版は1993年発行の第5版である。

学習指定図書制度発足以来、当初の趣旨は引き継がれているが、運用についてはそのつど必要な運用細則を付加して現実的に対応してきた。制度発足15年を機に、学習指定図書制度およびリスト全体を見なおして、今後の改善点を確認するのがこの稿の目的である。

II. 選 書

選書の目的は、長期的には、その図書館の存立目的にあった蔵書を計画的に構築していくことであり、短期的にみれば、目の前の利用者が求めている資料を早急に提供することである。

水準を保った選書をするには、選書業務を制度化すること、その制度をときおり見直すこと、そ

して学習・教育用図書の場合には特に、教員との協力体制をつくる必要があると考える。

選書には教員の協力は不可欠である。選書担当者は、職務として医学および関連領域の出版情報を常に把握していなければならないが、教員は、研究者としてその専門分野の出版物に関する知識と評価能力をもっている。津金は、「指定図書のような学習に必要な資料の収集には教員の協力が大切であるが、基本的には図書館の責任において収集しない限り有効な資料の収集は不可能である」¹⁾といている。図書館は、選書業務の制度化にあたって、教員のもつ専門家としての知識が反映できる制度を作り、積極的な参加協力を得るようにするのが、より効果的であると考ええる。

Ⅲ. 学習指定図書制度およびリストの概要

雑誌購入を優先していたために偏りがちであった蔵書構成を建てなおすため、1979年に「図書充実三カ年計画」をスタートさせた。通常の年間予算のほかに、特別予算として毎年1,000万円ずつ計3,000万円、加えて視聴覚資料および再生機器購入のために1,000万円が確保された。

図書館員にとって念願の単行書補充が実現するのは嬉しいことであったが、ほぼ同じころ医学部で、学部教育の現状分析や長期計画の検討が開始されたことなどを考えあわせると、指定図書制度は教授会をはじめとする医学部全体の意向に添ったものであり、幸運なスタートであったといえる。

まず図書館運営委員会において、この制度の趣旨および運用計画が定められた。その概要は次のようなものである。

- 1) 図書館の図書および視聴覚資料の充実をはかる。
- 2) そのために各教科の教育責任者（各教科の代

表教授）に依頼し、必読指定図書および推薦図書の指定を行う。

- 3) 図書館はこれによって蔵書を補充し、またリストを編集して全学生および教員に配布する。
- 4) 各教科の責任者は図書の指定にあたっては図書館が取り決めた指定基準に従う。

当初から堅実な運用計画のもとに始められたが、特に最後にあげた指定基準の存在は制度維持に大きく貢献している。指定基準および制度の趣旨については以下の章で述べるがここで「学習指定図書（リスト）第5版」（'93）の概要を紹介する。

資料名：学習指定図書第5版

形態：A5判62頁

構成：全63教科目についてそれぞれ、指定された図書の内容レベルによってA項*からE項までの5段階に区分（次章で詳述）された図書がリストアップされている。

掲載点数：単行書826冊、叢書60タイトル（複数教科からの重複指定は一冊と数えた）数

表2. 「学習指定図書第5版」部分

薬理学

A項

- 1 標準薬理学（4版） 412p 鹿取 信等編 医学書院 '92 ¥5,974 [M1.5]
- 2 薬理学アトラス 331p H. Lullmann 等編 中山貢一等訳 文光堂 '92 ¥6,180 [M1.5]

B項

- 1 NEW薬理学（2版） 田中千賀子等編 南江堂 '93 [M1.5]
- 2 医科薬理学（2版） 藤原元始等編 南山堂 '91 [M1.5]
- 3 Goth's medical pharmacology, 13th ed., ed. by W. G. Clark, et al., Mosby '92 [M1.5]
- 4 Basic pharmacology in medicine, 3rd ed., by J. R. DiPalma, McGraw-Hill '90 [M1.5]
- 5 Principles of drug action, 3rd ed., ed by W. B. Pratt & P. Tylor, Churchill Livingstone '90 [M1.5]
- 6 小児の薬理学 藤田 昂等著 南山堂 '92 [M3.92]

C項

- 1 Goodman and Gilman's the pharmacological basis of therapeutics, 8th ed., ed. by A. G. Gilman, et al., Pergamon '90 [M1.5]
- 2 Textbook of pharmacology, 2nd ed., by W. C. Bowman & M. J. Rand, Blackwell '80 [M1.5]
- 3 Pharmacotherapy; a pathophysiological approach, by J. T. Dipiro, et al Elsevier '89 [M2.3]

D項

- 1 Annual review of pharmacology and toxicology, Annual Review Inc., '68 [M1.505]
10('77) +
- 2 Meyler's side effects of drugs, Elsevier, [M1.505]
12th ed., ('92) +

掲載事項：指定順位/書名/版次/全頁数*/著编者・
原著者・翻訳者/必要に応じて叢書名と巻
次/出版社/発行年/価格*/請求記号。

* 5段階区分のうちのA項（＝学生用必読指定図書）には頁数と価格が付記される。図書館では複本を用意しているが、学生は、指定された図書の中から教科ごとに最低1冊を選んで各自購入するのが原則になっている。

表2はリスト12頁薬理学の部分である。

IV. 指定図書と推薦図書

「学習指定図書（リスト）」は4年ごとに改訂するが、このうちのA項（前述）部分だけは'91年以来毎年改訂し、新年度初頭に全学生および教員に配布している。（以下これを「A項リスト」という）厳密に言えばこのA項に指定されたものが指定図書であり、B項以下は推薦図書と呼ぶべきものである。

指定図書の定義は「教員の講義に関連して、学生に対して必読を求められた文献」²⁾で推薦図書とは「読んだほうがいい、読むことをすすめる」³⁾図書である。

上にあげた指定図書の定義に照らすと当館の学習指定図書A項は、利用者である学生が、自分の能力に応じた図書を自分で選択する余地を含んだ、柔軟な指定図書である。

V. 学習指定図書の指定基準について

学習指定図書制度が存続している理由は、制度が、自学自習をモットーとする学生・研修医・教員の現実のニーズに合っているからといって差しつかえないと思うが、これを支えているのは次の3点である。

- 1) 制度の趣旨が明確に成文化されている。
- 2) 成文化された指定基準を持っている。

3) 制度の運用については、現実にあわせた柔軟な対応をしている。

このうち2番めにあげた点は重要である。指定図書を実際に選定するのは教員なので、選定者の個人的好みに偏らない実用的な指定図書群を作るために指定基準を設けた。教員からみれば、条件付きの依頼を受けることになるのだが、これには「どのように選ぶか」、「誰のために選ぶか」に関する指示が込められており、好都合な示唆であるといえるのではないだろうか。

「指定図書(リスト)」巻頭の「項目区分の説明」がこの指定基準にあたるもので、表3～5である。

表3. 項目区分の説明：A項

- ・医学生の minimal essentials として、全学生が通読し理解する必要がある最低限レベルの必読書。学生はA項として指定された図書が複数ある場合、それらのうちの一冊を選ぶことができる。（購入が望ましい）
- ・量的には教育時間の1%（45時間）について、およそ100 から150 ページ以内の図書とする。
- ・図書の選択においては、全国の学生に広く用いられているものを選び、教員の好みに偏らないこと。（主として日本語の図書とすること）
- ・なるべく医師国家試験準備にも用いられるものであること。

教育時間1%とは次のようなことである。

小児科学を例にとると、今年度の当学の場合は講義と実習をあわせると教育時間は182時限（1時限は90分）で、これは全教科目の教育時間2,034時限の約9%に相当する。したがって1,000ページ前後の図書がふさわしいということになる。つまり教育時間数に比例した量の図書が選ばれることになる。

VI. 指定図書制度の運用と維持

1. 制度の運用

制度の趣旨は初版序文で明示されている。すなわち「これらの図書はミニマムの知識水準と、知識の量を示すものであって、学校教育目標そのものを示すものではない。医学教育自体は、知識を合理的に用いる能力、判断力、問題解決能力の啓発をめざすものである」ので「指定図書の知識内容を判断基準にして、学生は学習に、教員は教授方法に工夫」されたしという提言である。

当館では現在のところリストに掲載されたもの

表4. 項目区分の説明：B・C項

B項

- ・内外の定評のあるスタンダードテキスト。たとえば、内科のHarrison, Cecil 外科のSchwartz。
- ・余裕のある学生、USMLE 受験者および、教員の講義準備に用いられるもの。
- ・外国書の場合、半数以上は訳本のあるものとする。

C項

- ・専門書。
- ・教員の講義準備に用いられる程度の代表的なもの (Advanced readings)
- ・大部のテキスト、モノグラフ類。

表5. 項目区分の説明：D・E項

D項

- ・「全書」類 (日本および外国の代表的な叢書)

E項

- ・AV教材 (学生教育に用い、全員が見るべきもの) ビデオカセット、スライド類。

はすべて購入することにしており、改訂版も発行のつど購入している。つまり、指定された図書の改訂版が発行されれば、その時点で自動的にその改訂版が学習指定図書になる。

しかし今後図書館予算のうち図書購入費が削減されるような事態にいたれば、A項は現状のまま、その他は指定された図書の中から選書担当者が必要なものを選んで購入するということになるかもしれない。

指定された図書をすべて購入するか否かについては、図書館の判断するところであり、また「学習指定図書リスト」の改訂の頻度も同様である。要は趣旨を尊重して現実的に対応するのが制度運用についての当館の基本方針である。

指定図書の利用度調査は未経験であるが、展示用の図書の形態 (利用された形跡) や貸し出し記録、利用者との対話などから判断すると、A・B項図書はかなり頻繁に利用されているといえる。

新任の教員には「指定図書リスト」を送り制度の趣旨を説明して協力を依頼している。

2. 指定図書選定の実際

ここでリスト編集業務の概略とその際の教員と図書館員の役割について確認し、指定図書がどのようにして選ばれるかを概観する。「A項リスト」は毎年のことなので、改めて編集会議は開かない。年末に図書館の担当者は各教科の教育責任者に指定依頼状・制度の趣旨・指定基準を記入用紙と共に発送する。指定基準には冊数についての決まりが無いので、この際にAからE各項とも、目安になる冊・タイトル数を示し、その範囲内で優先順位をつけて指定するように依頼している。

回答を年明けに回収して編集し新学期に発行配布する。新入生への配布は入学式用資料とともに医学部事務部によって行われている。

指定依頼をするときの注意事項は教科目の変更等を確認することである。また薬物療法や行動科

学といった、複数の講座によって運営される教科では誰に指定を依頼したら良いのか判断がつかねることもあり、その場合は必要に応じて図書館運営委員に相談する。

著名な教科書の改版は新学期に向けて行われることがよくあるので、なるべく最新情報が掲載できるよう印刷発注のタイミングに注意する。

4年ごとに改訂するリスト本冊については図書館が時期をみて編集発行計画をたて、図書館運営委員会に提案して指定図書選定委員会（教員3人司書1人程度）を結成する。

この委員会の役目は指定基準の見直し、教科目の確認、教授会において、選定のための協力依頼や授業での利用促進等のアピール、編集担当司書の判断に余る問題が起きた場合の相談役等である。

図書の指定にあたる各教科の教育責任者へは図書館から参考資料として、出版案内のパンフレットやBrandonリスト等既存選書リストの該当部分の紹介などを行っている。

VII. 指定された図書について

指定された図書の分析は、本稿の趣旨ではないが第5版を概観した結果を以下に示す。

1. 和書洋書の比較

第5版の和書洋書の比較は表6のとおりであるが、版を重ねるごとに和書が増え、洋書が減る傾向にある。第2版では和書は全体の51%であったが3版では58%4版では63%である。

2. A項図書について

'93年度のA項指定図書は144冊で、'94年度には155冊になった。このうち126冊が前年に引き続き指定されたもので、残る29冊が変更されたものおよび追加されたものである。例年このような傾向で80%程度が継続指定される。

表6. 項目別和・洋書数

	A 項	B 項	C 項	D 項	合計
和 書	144	241	161	39	585
洋 書	11	116	153	21	301
合計	155	357	314	60	886

単位は冊またはタイトル、複数教科からの重複指定は1と数えた。

継続指定にはVIで述べたように改訂版も含まれる。教科目による差もあるが、A項に指定される図書はB項のいわゆるスタンダードテキストと比べると改訂はかなり頻繁である。

3. Brandon リストとの比較

A項は主として日本語の図書という基準があるのでB・C項指定の洋書を比較した。'93年版のBrandonリストと「第5版（'93）」では22%が一致した。臨床医学系図書を中心に編集されているBrandonリストの性格がこの結果に反映していると思われる。また指定される洋書自体が減っていることも関係していると考えられる。ちなみに同リスト'83と「第2版（'84）」では27%の一致であった。

4. 指定者のジレンマ

B項（内外の定評のあるスタンダードテキスト）に比べて、C項（教員の講義準備に用いられる程度の代表的な専門書）図書は指定図書リスト各版で変動が多いのが特徴である。C項の選定結果をみるにつけ、毎回指定者の苦労を垣間みるように思えるのだが「そもそも指定できるような図書は存在しないのだ」というメッセージとも受け取れる。

VIII. 今後の課題：視聴覚資料の扱い

A項指定図書について、'95年版リストから指定理由のコメントまたは内容紹介をつけたいと考えている。また、目下の懸案事項に視聴覚資料の扱いがある。以前は小児診断学のビデオシリーズが指定されていたこともあったのだが取り消され、その後変わりの作品が無いということで、第4版からはE項の項目自体を削除せざるを得なかった。

視聴覚資料、特にビデオ教材に対する期待は、内科・外科診断学、精神医学、心理学等をはじめとして各教科で大きいのだが、個々の作品については満足できるものが少ないのが現状である。学内での自主制作も検討したいが、同時に制作会社の大学教育用作品の制作にも期待するところである。スライドやレーザーディスクなども含めて医

学教育に相応しい資料を探し、是非E項を復活させたいと思っている。

本稿は1994年6月18・19日に岩手医科大学で開催された第11回医学情報サービス研究大会での発表をもとに作成した。

参考文献

- 1) 津金幹彦. 図書館資料の構築. 東京: 東海大学出版会, 1985.
- 2) 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会. 図書館ハンドブック第5版. 東京: 日本図書館協会, 1990.
- 3) 図書館科学会. 図書館通論(講座新図書館学1). 東京: 教育出版センター, 1977.
- 4) 高鳥正夫. 大学図書館の運営. 東京: 勁草書房, 1989.